

お台旧防波堤（鳥の島2 島）における鳥類のモニタリング調査 夏季調査（7 月）報告書

2022 年 8 月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 4 年 7 月 11 日（月）	8：00～14：00	晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を行った。

（1） 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2 島の各 2 点に眺望のよい定点を設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

第 5 回秋季調査（※調査回の定義については後述する。）においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に 1 台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から 77 日間であった。（第 7 回春季調査～第 7 回夏季調査）。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景

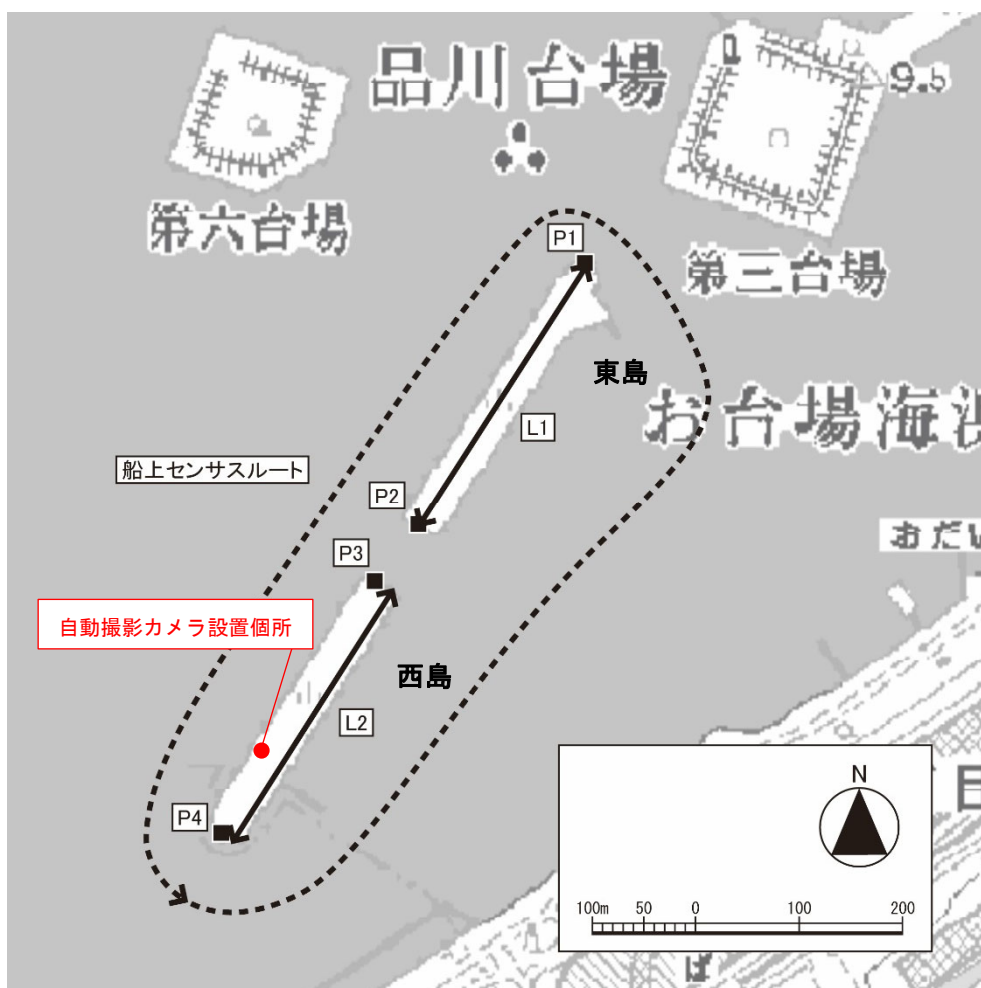


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 7 回の夏季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。これらのうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 *:留意種

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、7 目 16 科 19 種が確認された（表 4）。
- 確認種の約半数は水域及びその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやアオサギ、コサギ等の 8 種が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息するシジュウカラやヒヨドリ、メジロ等の 5 種が確認されたほか、都市部で見られるツバメやムクドリ、スズメ等の 4 種、様々な環境で見られるキジバトやトビ、ハシブトガラスの 3 種が確認された（表 4）。
- 渡り区分別にみると、留鳥（ある地域で一年中見られる種）が最も多く、キジバトやヒヨドリ、スズメ等の 17 種が確認された。次いで夏鳥（ある地域で夏に見られる種）のコチドリやツバメの 2 種が確認された。
- 重要種はダイサギ、コサギ、コチドリ、イソシギ、ウミネコ及びトビの合計 6 種が確認された（表 4）。島内では、護岸にとまるコサギや、護岸にとまり休息するコチドリ、護岸や砂礫地で採餌するイソシギ、広葉樹林上空で採餌飛翔するトビが確認された。島内外では、上空を通過するダイサギ、コサギ及びウミネコが確認された。
- 外来種はドバトが確認された（表 4）。
- 確認個体数が最も多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 201 個体（表 5）、ラインセンサスでは合計 36 個体が確認され、優占度は東島で 38%、西島で 46%を占めた（表 6）。定点観察調査では合計 75 個体（表 7）が確認された。主に常緑広葉樹にとまる個体や護岸で休息する個体、上空を通過する個体が確認された。東島では巣内雛や巣立ち雛も 5 例観察された。
- 比較的確認個体数が多かった種はカワラヒワやアオサギであった。カワラヒワは、船上センサスにおいて両島で合計 3 個体（表 5）、ラインセンサスでは合計 13 個体が確認され、優占度は東島で 33%、西島で 8%を占めた（表 6）。定点観察調査では合計 15 個体（表 7）が確認された。主に、落葉広葉樹にとまる個体や上空を通過する個体が確認された。また、常緑広葉樹の葉についた昆虫類を採餌する様子が観察された。アオサギは、船上センサスにおいて両島で合計 16 個体（表 5）、ラインセンサスでは合計 2 個体が確認され、優占度は東島で 0%、西島で 2%を占めた（表 6）。定点観察調査では合計 11 個体（表 7）が確認された。主に、護岸にとまり休息する個体や上空を通過する個体が確認された。
- その他、スズメが常緑広葉樹の根元で昆虫類を採餌する様子や、ツバメが海面上空で採餌する様子が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査（夏季）との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 前回調査と今回調査の確認種数は、第 6 回では東島で 19 種、西島で 17 種、合計 21 種、第 7 回では東島で 13 種、西島で 17 種、合計 19 種であった（表 8）。第 6 回及び第 7 回で共通して確認された種は 17 種と確認種全体の 7 割ほどであり、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 6 回で確認されず第 7 回で確認された種はトビ及びメジロの 2 種であり、第 6 回で確認され第 7 回で確認されなかった種はオオタカ、カワセミ、オオヨシキリ及びハクセキレイの 4 種であった（表 8）。トビやオオタカは、これまでの現地調査や西島の自動撮影カメラにおいて定期的に観察されていることから、餌場や休息場として旧防波堤に飛来したものと考えられる。カワセミやオオヨシキリはこれまでも不定期的に記録されている種であり一時的に本島や周辺海域に飛来したものと考えられる。また、これまでの夏季調査において、メジロは 2 例目の記録となっており、一時的に旧防波堤に飛来したものと考えられる。ハクセキレイは夏季調査では毎回記録されていたが、7 回目調査では確認されなかった。路傍植物やノイバラ等のつる性植物が繁茂することで地面を覆い、開けた空間が少なくなっていることが要因のひとつと考えられる。
- 第 6 回より第 7 回で確認個体数が増加した種はカワラヒワであった（表 9、10、11）。前述した通り、主に落葉広葉樹林でとまる個体や、上空を通過する個体が観察された。

(3) その他

その他方法（自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時の他項目の調査）による結果について鳥類 6 目 6 科 6 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。なお、自動撮影カメラの記録について、春季調査時に日付がリセットされる事象があったため、今回、カメラの交換を行った。回収したデータについても再び日付がリセットされるエラーが 3 回発生したことから、可能な限り調査（データ回収）日から逆算して撮影日を特定した。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではカルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、トビ及びハシブトガラスの 6 種、哺乳類ではドブネズミ 1 種が確認された。
- 嘴で巣材をくわえるアオサギが 2 例、カワウが 1 例撮影され、いずれの種も巣材採集のために当場所を利用していることがうかがえる。
- 卵をくわえるハシブトガラスが 1 例撮影された。カワウのコロニーで卵やヒナを捕食している可能性がある。

- 重要種のトビ（東京都 RL：準絶滅危惧）が 5 月 20 日に地面を移動する様子が撮影された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準			
					夏季(7月)					
					東島	西島	①	②	③	④
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
3	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
4	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
5			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
6			コサギ	留鳥		○				VU
7	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		○				CR
8		シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
9		カモメ	ウミネコ	留鳥	○	○				*①
10	タカ	タカ	トビ	留鳥		○				NT
11	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
12		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
13		ツバメ	ツバメ	夏鳥		○				
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥		○				
15		メジロ	メジロ	留鳥	○					
16		ムクドリ	ムクドリ	留鳥		○				
17		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
18		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○				
19	ハト	ハト	ドバト	留鳥	○					
合計	7 目	16 科	19 種	-	13 種	17 種	0 種	0 種	0 種	6 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

注 3. 重要種選定基準④(東京都 RL) *:留意種

*①:準絶滅危惧(NT)に準ずる(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)

*②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				夏季(7 月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	3	1	4
2	カツオドリ	ウ	カワウ	45	156	201
3	ペリカン	サギ	アオサギ	5	11	16
4			ダイサギ	0	1	1
5	チドリ	シギ	イソシギ	0	2	2
6	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	1	3
7		アトリ	カワラヒワ	1	2	3
合計	5 目	6 科	7 種	56	174	230
				5 種	7 種	7 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季(7月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	2	3%	2
2	ハト	ハト	キジバト	1	4%	0	0%	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	9	38%	27	46%	36
4	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	2	3%	2
5	チドリ	シギ	イソシギ	0	0%	3	5%	3
6		カモメ	ウミネコ	0	0%	1	2%	1
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	6	25%	9	15%	15
8		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	2	3%	2
9		スズメ	スズメ	0	0%	8	14%	8
10		アトリ	カワラヒワ	8	33%	5	8%	13
合計	6 目	10 科	10 種	24	100%	59	100%	83
				4 種		9 種		10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計個体数
				夏季(7月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	1	3%	1	5%	0	0%	2	4%	4
2	ハト	ハト	キジバト	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	6	21%	7	37%	32	64%	30	64%	75
4	ペリカン	サギ	アオサギ	2	7%	2	11%	1	2%	6	13%	11
5			ダイサギ	2	7%	1	5%	0	0%	1	2%	4
6			コサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1
7	チドリ	シギ	イソシギ	2	7%	2	11%	1	2%	0	0%	5
8	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	1
9		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	1
10		ムクドリ	ムクドリ	12	41%	0	0%	6	12%	0	0%	18
11		スズメ	スズメ	2	7%	0	0%	4	8%	3	6%	9
12		アトリ	カワラヒワ	2	7%	5	26%	4	8%	4	9%	15
合計	6 目	10 科	12 種	29	100%	19	100%	50	100%	47	100%	145
				8 種		7 種		8 種		7 種		12 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種（夏季）

No.	種名	調査時期			
		第 6 回 (R2～R3)		第 7 回 (R3～R4)	
		夏季(7 月)		夏季(7 月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	キジバト	○	○	○	○
3	カワウ	○	○	○	○
4	アオサギ	○	○	○	○
5	ダイサギ	○	○	○	○
6	コサギ	○	○		○
7	コチドリ	○			○
8	イソシギ	○	○	○	○
9	ウミネコ	○	○	○	○
10	トビ				○
11	オオタカ	○			
12	カワセミ	○			
13	ハシブトガラス	○	○	○	○
14	シジュウカラ	○	○	○	○
15	ツバメ	○	○		○
16	ヒヨドリ	○	○		○
17	メジロ			○	
18	オオヨシキリ	○			
19	ムクドリ	○	○		○
20	スズメ	○	○	○	○
21	ハクセキレイ		○		
22	カワラヒワ	○	○	○	○
23	ドバト		○	○	
合計	23 種	19 種	17 種	13 種	17 種
		21 種		19 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期			
		第 6 回 (R2～R3)		第 7 回 (R3～R4)	
		夏季(7 月)		夏季(7 月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	3	3	3	1
2	カワウ	69	131	45	156
3	アオサギ	4	43	5	11
4	ダイサギ	1	3	0	1
5	コサギ	1	2	0	0
6	イソシギ	0	1	0	2
7	ハシブトガラス	1	0	2	1
8	シジュウカラ	0	1	0	0
9	カワラヒワ	0	0	1	2
合計個体数		79	184	56	174
合計島別種数		6 種	7 種	5 種	7 種
合計種数		8 種		7 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期							
		第 6 回 (R2～R3)				第 7 回 (R3～R4)			
		夏季 (7 月)				夏季 (7 月)			
		L1 (東島)		L2 (西島)		L1 (東島)		L2 (西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	2	2%	0	0%	2	3%
2	キジバト	2	7%	3	4%	1	4%	0	0%
3	カワウ	6	20%	64	76%	9	38%	27	46%
4	アオサギ	0	0%	1	1%	0	0%	2	3%
5	イソシギ	4	13%	1	1%	0	0%	3	5%
6	ウミネコ	1	3%	1	1%	0	0%	1	2%
7	ハシブトガラス	3	10%	2	2%	6	25%	9	15%
8	シジュウカラ	12	40%	0	0%	0	0%	0	0%
9	ヒヨドリ	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%
10	ムクドリ	0	0%	2	2%	0	0%	2	3%
11	スズメ	1	3%	6	7%	0	0%	8	14%
12	カワラヒワ	1	3%	0	0%	8	33%	5	8%
合計	12 種	30	100%	84	100%	24	100%	59	100%
		8 種		10 種		4 種		9 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果（夏季）

No.	種名	調査時期															
		第 6 回 (R2～R3)								第 7 回 (R3～R4)							
		夏季 (7 月)								夏季 (7 月)							
		東 島				西 島				東 島				西 島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度
1	カルガモ	1	5%	8	33%	6	10%	8	13%	1	3%	1	5%	0	0%	2	4%
2	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
3	カワウ	7	37%	6	25%	41	68%	49	78%	6	21%	7	37%	32	64%	30	64%
4	アオサギ	4	21%	2	8%	2	3%	5	8%	2	7%	2	11%	1	2%	6	13%
5	ダイサギ	0	0%	1	4%	1	2%	0	0%	2	7%	1	5%	0	0%	1	2%
6	コサギ	0	0%	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
7	イソシギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	7%	2	11%	1	2%	0	0%
8	ウミネコ	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	オオタカ	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10	カワセミ	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11	ハシブトガラス	1	5%	2	8%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
12	シジュウカラ	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
13	ツバメ	0	0%	5	21%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	12	41%	0	0%	6	12%	0	0%
15	スズメ	4	21%	0	0%	4	7%	0	0%	2	7%	0	0%	4	8%	3	6%
16	カワラヒワ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	7%	5	26%	4	8%	4	9%
合計	16 種	19	100%	24	100%	60	100%	63	100%	29	100%	19	100%	50	100%	47	100%
		7 種		6 種		9 種		4 種		8 種		7 種		8 種		7 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 7 回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○					
2	ヒドリガモ									○	○				○
3	マガモ		○	○	○		○	○	○						
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○	○	○
6	オナガガモ				○	○	○			○				○	
7	コガモ							○						○	
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○			○
9	キンクロハジロ										○				
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ													○	
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○	○	
13	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	ミミカイツブリ			○								○			
15	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○
16	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ゴイサギ					○									
19	ササゴイ		○												
20	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	チュウサギ									○					
23	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	カッコウ科の一種											○			
26	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○
27	ヤマシギ												●		
28	タシギ								○						
29	チュウシャクシギ														○
30	キアシシギ									○					
31	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	キョウジョシギ					○	○								○
33	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	カモメ	○	○			○									
36	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○		○	○
38	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○						
39	ミサゴ	○		○			○		○		○	○			
40	ハチクマ	○													

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 7 回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
41	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	ハイタカ		○		○					○					
43	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●		●
44	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○
45	オオコノハズク														●
46	カワセミ			○			○			○		○		○	
47	チョウゲンボウ		○				○	○							
48	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○
49	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○			○	
50	カケス				○										
51	オナガ			○	○	○	○			○					
52	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	ヤマガラ												○		
54	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ヒバリ						○								
56	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
59	オオムシクイ								○				○		
60	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
61	オオヨシキリ			○		○				○	○	○			
62	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
63	コムクドリ				○	○									
64	シロハラ	○	○	○	○						●		○	○	○
65	アカハラ	○			○			○			○				
66	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
67	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○	○	○
69	キビタキ	○				○									
70	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
71	キセキレイ			○											
72	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	セグロセキレイ				○								○		
74	タヒバリ						○				○				
75	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
76	シメ							○				○			
77	ホオジロ	○		○	○			○		○					
78	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
79	オオジュリン			○						○					
80	ドバト	○	○					○			○	○	○	○	○
合計	80 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種	41 種	41 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		51 種		47 種		47 種	

注 1. ●: 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



写真 2 鳥の島で確認された主な鳥類



写真3 自動撮影カメラで確認された生き物